

第36回 全国きき酒選手権大会レポート

決定！きき酒新チャンピオン

個人の部は東京都・早川サトルさん

団体は高知県チーム（植田・川田ペア）



「個人の部」新チャンピオンの早川さん



「団体の部」で優勝した高知県チーム（左が川田さん、右が植田さん）



全国のきき酒名人集合。特別枠で「インターナショナルの部」も初開催

全国のきき酒名人が自慢の技を競う「第36回 全国きき酒選手権大会」(主催＝日本酒造組合中央会)が10月27日、港区白金台のシェラトン都ホテル東京で開催され、＜個人の部＞では東京都代表の早川サトルさん、＜団体の部＞は植田憲尚さんと川田博士さんの高知県チームが、みごと新チャンピオンの座を獲得。また、特別枠として恒例の「大学対抗の部」と、今回が初めてとなる「インターナショナルの部」が設けられ、こちらでも熱いバトルが繰り広げられました。



「大学対抗の部」には11大学22名の現役学生が参加



首都圏在住の外国人11人が参戦した「インターナショナルの部」

35都道府県70人が激戦。学生、外国人もハイレベルな闘い



七田需要開発委員長

需要開発委員会の七田委員長が挨拶「今年も厳しい予選を勝ち抜いてきた頂上争い。ぜひ優勝をめざして頑張ってください」

昭和56年のスタート以来、日本酒業界きつての長寿イベントとして定着した「全国きき酒選手権大会」。36回目となる今大会は、35都道府県の予選を勝ち抜いてきたきき酒名人70人がエントリーして、年間統一チャンピオンの座をめざし激しいバトルを展開。また、特別枠で参加した大学生、在日外国人の代表も、「きき酒競技は初めて」という人が多かったにも関わらず、ハイレベルな戦いで競技を盛り上げました。



めざせ頂点！団体優勝杯(左)と、個人の部優勝杯



■ 昨年、団体の部で優勝した千葉県チーム(今年の代表は本吉淑郎さん(左)と中山敏明さん)が優勝杯を返還。



■ 選手宣誓は宮城県チーム(左から安藤貴子さんと羽賀浩さん)。「日ごろの鍛錬と磨き上げた官能により精一杯きき酒することを誓います」

■ 競技開始。まずは酒造の基礎知識を問う筆記試験から(20分)



■ 審査委員長を務めた(独法)酒類総合研究所の関弘行理事。



■ 中央会の濱田理事が競技方法説明

15分の真剣勝負。「憧れの場で実力発揮できました」



競技中は私語厳禁。緊迫した空気の中に、カラフェとグラスが触れ合う音が小さく響く。

午後1時、きき酒競技本選のスタート。競技方法は、7種類の日本酒（純米吟醸酒、大吟醸酒、純米酒、本醸造酒、生酒、低アル酒、普通酒）を2回きき酒して、好みの順位を合わせるマッチング法で、5つの組に分かれた選手たちは、それぞれ15分の制限時間をフル活用して真剣勝負。最後は例年どおりプレイオフでの決着となりましたが、選手の一人は「全国大会出場は長年の憧れ。実力発揮できました」と爽やかな笑顔を見せていました。



プレイオフの時間を利用して、中央会の須藤技術顧問が「清酒の味わい方」をテーマにミニ・セミナー。「きき酒のコツは無心に香りを嗅ぐこと。口に含む時上を見ないで酒を見る」



■ きき酒の表情。「見る」「注ぐ」「嗅ぐ」「含む」「記録する」一どの顔からも、真剣さと気迫がピシビシと伝わってきます。



■ 大会参加認定証の写真撮影も



■ 競技を前に、闘志を見せる「インターナショナルの部」参加者。「殆ど分からなかったけど面白かった。日本酒は香りがステキですね」(参加者の一人。競技を終えての感想)



■ こちらもやる気満々の「大学対抗の部」参加者。「きき酒は初めて。参加が決まって少し練習したけど、2、3点当てるのが精一杯でした」(女子大生の感想)

個人の部2位は加藤さん、3位倉沢さん。団体は2位奈良、3位山形



勝利者を囲んで。左2人目から、団体優勝した高知県の川田さんと植田さん。個人の部優勝の早川さん。右から全国農業協同組合連合会・原材料課の神田課長、日本酒造組合中央会の篠原会長。日本酒マスコット・おちょくんもお祝いに駆けつけました(左端)。

オフサイドの笛が鳴って、歓談のひと時。競技終了後に開かれた懇親パーティでは、中央会の篠原会長の発声で「日本酒で乾杯！」した後、日本酒と料理を楽しみながら、参加者全員がお互いの健闘を祝福。注目の表彰式では、篠原会長と全農の神田原材料課長が、各部門の入賞者に優勝杯や賞状や記念品(日本酒と全農提供のお米券など)を手渡し、それぞれの活躍を称えました。



「皆さん、素晴らしい闘いでした。地元や母国に帰ったら、日本酒の面白さを伝えてください」

＊ 喜びの言葉 ＊



3回目の挑戦で優勝を果たした早川さん。「ビックリしました。賞品の日本酒は飲み仲間と皆で楽しめます。日本酒が好きでホントに良かった」とニコリ。



高知県チームの植田さんは、初出場での栄冠。「うれしいです。モヤモヤした手応えがあったので、もしかしたらと思ったけど」とのこと。



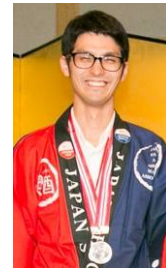
植田さんとタッグを組んだ川田さんは、「足を引っ張ってて思っていました。相方が頑張ってくれたお陰です」と、謙虚な喜びの弁。



■ 団体の部・準優勝は奈良県チーム(木村豊恒さん&奥野夏美さんペア)



■ 団体の部・第3位は山形県チーム。(齋等剛さん&中野恵さんペア)



■ 個人の部・準優勝は北海道代表の加藤博さん



■ 第3位は長野県代表の倉沢晃子さん



■ 「大学対抗の部」は東京農業大学チームが優勝(中央の2人)。第2位は新潟大学(左の2人)、3位・津田塾大学(右の2人)。



■ 「インターナショナルの部」初代チャンピオンは台湾の Lin Weiyao さん(中央)。2位は米国の David Cheek さん(右)、3位も米国の Robert Chen さん(左)。



オフサイドの風景

第36回 全国きき酒選手権大会
平成28年 10月28日



競争相手の垣根が取れて、みんな飲み友だち。ふんだんに用意された日本酒と料理を片手に、日本語で、英語で、コミュニケーションの輪が広がる。



審査委員長から正解が発表されると、あちこちで歓声や落胆の音が。



日本酒造組合中央会



🌸 於/シエラトン都ホテル東京(港区白金台)